

横浜市立東俣野特別支援学校 学校評価報告書 (令和元年度版)

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	① 12年間の一貫した指導・支援を行うため、目標設定や指導・支援の手立てに関する確認や指導の振り返りを充実させ、職員間の共通理解を図る。② 個の実態やニーズに応じたコミュニケーションスキルを育成するための支援機器や自作教材の活用を推進する。	① 日々の振り返りや指導計画の中で、児童生徒の状況を共有し、個々の目標を意識した授業づくりや支援の在り方などについて、意見を出し合った。② コミュニケーションの支援機器や自作教材については既存の枠組み内での教材活用にとどまっている。新たな支援機器等の活用についての検討等が必要。	C
豊かな心	① 他者とふれあうことの楽しさや人とのつながりを体感できるように、東俣野小学校や大正中学校、若葉台特別支援学校との交流を充実させる。② 児童生徒の自尊感情や自己肯定感を育むために、他との関わりの中で「できた・わかった」という達成感を体験をする学習の場を積極的に設ける。	① 運動会をはじめ、校内外の1つひとつの交流を大切に、児童生徒にとってよりよい交流が重ねられるよう努めた。② 発達段階と生活年齢に応じた達成可能なスモールステップに基づいた支援、指導の在り方を人権的な観点を持って話し合い、個別あるいは集団の授業づくりに生かしていった。	A
健やかな体	① 健康保持のために、教職員間及び保護者との連携を密にし、個々の健康状態の把握と適切なケアについての共通理解を深め、併せて個々の特性に合わせた運動プログラムの充実を図る。② 口腔衛生の意識向上を図るために、年間を通して歯磨き指導を推進する。	① 個々の健康状態の把握と適切なケアについて保護者と連携し、共通理解を深めた。また、必要に応じてPTやOTとも連携し、運動プログラムに取り組んだ。② 各年2回の歯科検診、歯科巡回指導や長期休業中の歯みがきカレンダーなど年間を通して歯科保健活動を行った。	B
専門性の向上	① 個々の目標に沿った指導の充実と評価の妥当性・信頼性を高めるため、小集団での特性に応じた指導について研究し、年度途中と年度末に報告会を持つ。② 様々な実態の子どもの捉え方、支援や関わりのある方、指導力の向上を目指して、PT研修・OT研修やその他の研修を有効に活用する。	① ニーズや実態の近い小集団でのグループ学習を実践した。個々の目標に対する変化の振り返りを丁寧に行い、特性に応じた指導と学習形態の効果を研究しまとめた。② OT・PTによる研修を行い、その助言を支援や関わり等で活かせるよう取り組んだ。研修に関しては、ねらいを明確にして臨む必要がある。	C
開かれた学校	① 教職員が質の高い指導を自信をもってできるように、チームによる指導体制を充実させる。② お互いの良い取り組みを学び合い、組織として生かすことができるよう、学年会や連絡会等で、良い取り組みや良い事例の共有をする。③ 学校運営協議会設置に向けての準備を行う。	① 学級担任複数が児童生徒に関わり指導の質を高められるように、学級の実態に応じて指導体制を工夫した。② 学級の状況や連絡会で報告したが、指導方法等についての情報共有は十分ではなかった。③ 学校運営協議会の設置に向けて、研修会の出席、情報収集、隣接校との下打ち合わせを行った。	B
安心・安全な学校	① 高度医療対応委員会を年間を通して開催し、人工呼吸器児保護者の校内待機のあり方等を整理する。② 安全に対する意識の向上と組織的な安全対策整備のため、ヒヤリハット報告を集約・分析し、定期的に共有する。③ 停電時の対応を含めた体系的な危機管理マニュアルを整備する。	① 一年間の試行実施と検討を経て、人工呼吸器を使用する児童生徒の校内での支援基準をまとめた。② 昨年度に比べてヒヤリハット事例の発生数が減少。共有方法についてはより良い方法を探っていく。③ 避難訓練や引き渡し訓練では、級外職員の役割を明確にし、非常変災に対応する体制を整えた。	C
キャリア教育	① 将来の多様な社会参加を見据え、個々の資質や伸ばしたい能力を明確にし、キャリア発達の見点をもち地域資源を活用した進路学習の充実を図る。② 施設見学、進路面談・説明会・懇談会の充実を図り、一貫性のあるキャリア発達と社会的自立の意識を高める支援を行う。	① 実習等では、学校と福祉相互が連携できるように生徒の実態や目標等を共有した。② 保護者へ適切に情報を提供できるよう、サポートニュースの発行回数増や、PTA進路委員会と連携して見学会や懇談会の内容の充実を努めた。見学会では、卒業生保護者との懇談会を設定し、社会参加の意識を高めた。	B
センター的機能	① 小中学校への教育相談の具体的な内容の周知と、児童生徒支援専任会やコーディネーター協議会との連携強化を図ることで、学校支援の活用へとつなげる。② 地域や支援に関わる人たちへ、子どもたちとの関わり方や車いすの操作等の各種研修を積極的に行うことで、理解啓発を推進する。	① 区内の専任会やコーディネーター協議会等で意識的に発信を行ってきたが、地域の個別支援学級に通う児童生徒に関する相談が、少ない傾向は変化がみられなかった。② 今年度外部への研修を、6件実施した。研修を受講した方から新たに別の場での依頼を受けるなど一定の評価を得た。	B
いじめへの対応	① 教職員の適切な立ち振る舞いや言動が子どもの自尊感情を育むことを共有し、定期的にチェックシートを活用して子どもに向きあう教育職員としての姿を振り返り、課題の発見と改善を行う。② 毎月の連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行う。	① 様々な機会を通して、教職員それぞれの立ち振る舞いを振り返ることを行った。チェックシートは、より現状に即した振り返りとなるように項目の精査が必要である。② 連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行った。アンケートを取り、いじめ防止対策委員会で点検・確認し全職員と共有した。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	① グループウェアを活用して情報や課題の事前共有を行い、会議の精選化や効率化を図る。② 職員個々が業務の効率化への意識向上を図るため、定時退勤日を設定する。③ メンターチームを中心とした人材育成の中で、経験の豊かな教員の授業から学ぶ等のミニ授業研を行う。	① グループウェアの活用が進み、職員の中で情報の共有や会議の効率化の意識は高まってきた。② 定時退勤日については十分に浸透していないが、時間外勤務は減少しており、業務の効率化の意識は見られる。③ 経験のある教員から直接話を聞く機会を設けるなど、新たな取り組みを行った。	B
学校関係者評価	○学校づくりアンケートでは、各設問に置いて、「分からない」という回答が少ないのは、学校の取り組みや日常的な努力を保護者の方に理解していただいていることの現れだと思う。 ○防災対策に関しては、実際を想定した内容に取り組んでほしい。また、消防団との連携や地域防災訓練も活用できるのではないかとと思う。 ○東俣野小学校との交流は大変にありがたい。今後も交流、連携を深めてさらに関係を豊かにしてほしい。		
評価結果に対する学校の見解	○学校の取組に関しての一定の評価があるが、「開かれた教育課程」という観点からも、今後も学校での取り組みを保護者や地域にしっかりと発信し、理解と連携、協力を深め、子どもたちの学びや安心安全に活かしていければよいと思う。○防災対策に関しては、学校独自で取り組むこと、地域との連携を図ること、行政に働きかけることなどの内容について、現状や課題を整理し、取り組んでいく必要があると考える。○東俣野小学校との交流は、これまでの成果を活かしながら、さらにより良い形を目指していきたい。		
学校経営 中期取組目標 振り返り	中期学校経営方針の1年目を終え、中期取組目標の柱である「専門性の向上」「関わりを大切にする学校」「安心安全な学校」に関して、具体的取組を通して、継続すべきもの、工夫と努力を要するもの等の課題が見えてきた。目標の達成に向け、工夫や努力を要する課題に関しては、ねらいと具体的な手立てを学校全体で共有して取り組んでいく必要があると考える。一例として、個に応じた的確な指導や自己肯定感を育む指導を更に進めるための教職員の研修の工夫、災害時等の危機管理体制における、地域、保護者との連携強化などが考えられる。		